

社説

2022.9.29

オンライン「顔出し」の利点再認識を

コロナ禍以降、テレワークの普及とともにオンライン会議やセミナーが定着してきている。しかし、オンライン会議やセミナーが定着してきている一方で、対面での会議やセミナーの現場では「顔出し」が求められる場面が増えている。オンライン会議やセミナーの利点を再認識し、オンライン会議やセミナーの活用を促進する必要がある。

オンライン会議やセミナーの利点として、時間や場所を問わずに参加できることや、録画機能による見逃し防止などが挙げられる。一方で、対面での会議やセミナーには、相手の表情や態度を確認できることや、質疑応答がスムーズに行えるなどのメリットがある。

オンライン会議やセミナーの活用を促進するためには、オンライン会議やセミナーの利点を再認識し、オンライン会議やセミナーの活用を促進する必要がある。また、オンライン会議やセミナーのセキュリティ対策を強化し、安心して参加できるようにすることが重要である。

持続可能社会／化学総合



マネージング・ディレクターに聞く

持続可能な社会の実現に向けて、化学業界は大きな役割を果たす必要がある。特に、環境負荷の低減と資源の有効利用が重要な課題となっている。

持続可能な社会の実現には、化学業界が積極的に取り組む必要がある。例えば、再生可能な原料の使用や、廃棄物の削減などが挙げられる。また、化学業界が持つ技術力を活用し、持続可能な社会の実現に貢献することが求められる。

持続可能な社会の実現に向けて、化学業界は大きな役割を果たす必要がある。特に、環境負荷の低減と資源の有効利用が重要な課題となっている。

日本市場に急速浸透

マスバランスで脚光 | SCC Plus 認証

複雑な生産プロセスを有する化学産業のサプライチェーンのバイオマス化を推進し、カーボニュートラル実現のための必須のアプローチとして注目されるマスバランス(物質収支)方式、その代表的な認証制度の一つがISCC(国際持続可能性イニシアチブ)が展開するISCC Plus認証である。

ISCC Plus認証は、バイオマス由来の原料が持続可能な方法で生産され、かつ、その生産過程が環境に優しいことを保証する。また、ISCC Plus認証は、バイオマス由来の原料が持続可能な方法で生産され、かつ、その生産過程が環境に優しいことを保証する。

東京でイベント初開催

ISCC Plus認証の取得は、持続可能な社会の実現に向けた重要なステップである。日本市場にISCC Plus認証を導入し、持続可能な社会の実現に貢献することが求められる。

ISCC Plus認証の取得は、持続可能な社会の実現に向けた重要なステップである。日本市場にISCC Plus認証を導入し、持続可能な社会の実現に貢献することが求められる。

日本ゼオン

VRでリスク評価・社員教育

工場運営にデジタル技術活用

日本ゼオンは、工場運営の効率化とリスク評価の高度化を目的として、VR(仮想現実)技術を活用している。VR技術を用いたリスク評価や社員教育は、従来の方法に比べて効果的であるとされている。

VR技術を用いたリスク評価や社員教育は、従来の方法に比べて効果的であるとされている。また、VR技術を用いた工場運営の効率化も進んでいる。

横浜に新研究棟

三菱ケミカルグループ

量子・人工光合成に力

三菱ケミカルグループは、横浜に新研究棟を建設し、量子・人工光合成の研究開発に力を入れている。新研究棟は、最先端の研究設備を備え、持続可能な社会の実現に貢献することが期待されている。

新研究棟は、最先端の研究設備を備え、持続可能な社会の実現に貢献することが期待されている。また、量子・人工光合成の研究開発も進んでいる。

結晶チオ硫酸ソーダ(ハイボ) Na₂S₂O₅・5H₂O SODIUM THIOSULPHATE-CRYSTAL

ハイボ液・アイラックC 脱塩素剤

EM 神洲化学

欧州でCFP投入 制板ガラス投入 AGCは、100%子会社のAGCガラスヨーロッパ(ベルギー)によるL.O.カーボラス製品の投入を発表した。

AGCは、100%子会社のAGCガラスヨーロッパ(ベルギー)によるL.O.カーボラス製品の投入を発表した。

両者は2022年にラインエネルギー技術および発光素子の開発に関する共同開発を行うことについて合意した。また、両者は2022年にラインエネルギー技術および発光素子の開発に関する共同開発を行うことについて合意した。

両者は2022年にラインエネルギー技術および発光素子の開発に関する共同開発を行うことについて合意した。

宇宙に飛び立つ

三福の技術力

弊社製品が宇宙航空研究開発機構(JAXA)の「こうのとりのり5号」(2015年8月19日打ち上げ)に搭載されました。

詳細は▶▶▶ <https://www.mitsufuku.co.jp/products/fkm-sponge-open-cell/>

ミツフクフォーム

世界初のフッ素ゴム連泡[®] 宇宙ステーションに採用

連続気泡タイプ ●耐熱、耐薬など多方面で高い耐性を持ちます。低アウトガス性、防音性、難燃性、遮光性などの特性をもち、様々な分野でご利用いただけます。

独立気泡タイプ ●低アウトガスの耐熱クッション材として、半導体製造装置のパッキンや精密部品のホットプレス緩衝材として使用されています。

三福工業株式会社 www.mitsufuku.co.jp

新規有機ボロン酸のご紹介

今日の医薬品、電子材料、各種機能性材料合成の一翼を担う鈴木-宮浦カップリング反応は、その応用性・汎用性の高さから、その原料となる有機ボロン酸は現在に至るまでに多くの化合物が開発されています。弊社でもアリールボロン酸やヘテロアリールボロン酸など約300種類の多様なボロン酸を取り揃え、販売を開始致しました。

この機会にぜひ弊社の有機ボロン酸をお試し頂き、様々な化合物の合成検討にお役立て下さい。

試験研究用途のほか、バルクスケールでの対応も可能となっております。ご希望のお客様は、弊社営業担当または取扱代理店までご連絡頂けますようお願い致します。また、掲載のない化合物についても是非ご相談下さい。パラジウム触媒・配位子(リガンド)も取り扱っておりますので、併せてご相談下さい。

JUNSEI 純正化学株式会社

〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1-6

TEL 048-988-3621 FAX 048-988-6689

E-mail: eihon@junsei.co.jp

化学とくらしを信頼でつなぐ

High Technology & Sincerity

リン酸塩 次亜リン酸塩 縮合リン酸塩 リン系難燃剤 乳酸カルシウム 乳酸ナトリウム 活性炭炭 ステアリン酸塩系滑沢剤

メデイカル関連 院内感染予防商品

High Technology & Sincerity

⊗ 太平化学産業株式会社

本社 〒540-0039 大阪府中央区東船場1-19 ☎06(6942)2515(代)

東京支店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-7-2 MFPR日本橋本町ビル ☎03(6206)2200(代)

名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-19-25 MS桜通7F ☎052(232)1251(代)

ホームページ <https://www.taihei-chem.co.jp>

The Mass Balance approach is attracting attention as an essential approach for promoting biomass in the supply chain of the chemical industry, which has complex production processes and for achieving carbon neutrality. "ISCC PLUS Certification" developed by ISCC (International Sustainability and Carbon Certification) is one of the leading globally acknowledged certification systems. The ISCC PLUS Certification is a certification system for the sustainability of biobased and recycled materials and is becoming widely applied in the Japanese chemical industry. Chemical Daily asked Andreas Feige, Managing Director of ISCC, about his perception of the current situation.

Q. ISCC is an independent multi-stakeholder initiative and leading certification system. Dear Mr Feige, could you give us an overview of ISCC?

A. ISCC is a global certification system recognized by several authorities such as the German Agency for Agriculture and Food (BLE), the European Commission, the Japanese Ministry of Economy, Trade and Industry (METI). The number of ISCC members (200+) and certified system users grow each year with ISCC being used in more than 100 countries with 49 cooperating certification bodies providing certification services. Up to now more than 750 ISCC auditors have been trained. Beside the certification by independent third parties (certification bodies) ISCC closely monitors certification activities and conducts additional audits with its own auditors. These additional audits are integral part of the ISCC Integrity Program and risk and quality management.

ISCC is applicable for food, feed, energy, chemical and industrial applications anywhere in the world, including the bio- and circular economy. Under ISCC PLUS bio, bio-circular, circular material as well as many derivatives & final products can be covered.

Q. Would you tell us about market trends in the circular economy and bioeconomy?

"There is no doubt that certifications related to the circular- and bioeconomy are increasing. When we introduced ISCC to the Japanese market in 2018, the market was mostly related to waste and residues. ITOCHU was the first company in Asia to obtain ISCC certification in 2019, and since then certification increased very rapidly in Japan."

Q. What is the status of ISCC certification issued so far?

A. Despite the pandemic, the number of valid ISCC PLUS certificates has grown from 535 in September 2020 to 2333 certificates in September 2022. In the Japanese market 75 certificates are currently valid, out of them 58 being ISCC PLUS certificates. As Japan is one of the largest chemical nations in the world, it becomes more relevant to ensure a

credible sustainability certification in the market.

Q. ISCC is going to host an event in Tokyo in October. Please tell us about it.

A. 'This session will be the first event officially held by ISCC in Tokyo. The main focus of this event is highlighting market opportunities for Japanese companies when becoming ISCC certified. As Japan is one of the largest chemical nations in the world, ISCC certification can be the solution of choice to prove sustainability for supply chains and credible products. Participants will gain valuable insights into ISCC certification, learn more about the ISCC PLUS approach as well as carbon credit certification.

Q. We have heard that it takes 6 months to 1 year for a Japanese company to obtain ISCC PLUS certification. Can this situation be improved?

One of the key purposes of holding this event is to make ISCC more known and attract further Japanese certification bodies in order to eliminate the waiting period for certification. In case the capacity of the certifying audit organizations could be adapted to the high demand even leadtimes of three months may be achieved. To this end, in addition to the event, we will also set up meetings with certification bodies.